

# FOCUS

## 追いかける。大学生。

関西外国語大・2年

森川 祥太郎 さん

同志社大・3年

酒井 かえで さん

公益財団法人 AFS 日本協会  
京都支部

日本全国 72 支部と、都道府県の数よりも多い支部を設けて留学支援を行う「公益財団法人 AFS 日本協会」。中でも京都支部には 80 人以上の学生が参加し、50 年以上の歴史を持つ。今回はその京都支部を支える部局長の 2 人に話を伺った。



# 支援から自己の成長を

AFS は留学生の派遣、受け入れ、交流を 3 つの軸として、ホストファミリーを探したり、留学の魅力を伝えるためのイベントを開催する。一言でまとめることはできないが、AFS のカバ―する「留学」の範囲は非常に広い。そのため、京都支部だけでも部局が 11 に細分化されており、仕事も明確に分業されている。その中で、広報部の部長が森川さん、そして海外から来る留学生、ホストファミリー、ホストスクールの三者のサポートを担当する「受け

入れ部長」が酒井さんだ。2 人はどちらも 1 年生のころからアクティブメンバーとして活躍し、森川さんは今年から学校近くの下宿を引払い、活動拠点の京都にあえて引っ越すほどの「熱さ」を見せている。

11 ある部局の中でも、2 人の所属する部局はどちらも活動の根幹をなす仕事を任されている。どれだけよいイベントを打ち立てたとしても、広報による集客がうまくいかなければ成功と言えない。「京都支部は昔から、企画だけに

目が行きやすい傾向があった。質を上げるためにも、僕が広報のあり方を変えたい」と森川さんは話す。実際に、それまでなかった広報部用マニュアルを作るなど、目に見えるような改革も行ったという。また、酒井さんの「受け入れ」の仕事も、うまくいかなければ AFS の土台となる活動が継続できないため、責任は重大だ。酒井さんは「ホストファミリーとして留学生を受け入れることで、充実した思いができる。その良さを多くの人に感じてほしい」と微笑んだ。

ボランティアとして「留学」という、資金面でも精神面でも大きな出来事に関わるだけに、時には難しさを感じることもあるそうだ。「みんなそれぞれ真剣に AFS という団体に向かっていてくれる。その中には自分の生活があって、割ける時間も違う。その折り合いをうまくつけるのが難しい」と酒井さん。しかし 2 人ともが、乗り越える苦労があったとしても、この活動に大きな価値があると話す。森川さんは「他人と自分の成長のどちらも肌で感じ

ホストファミリー、派遣生 募集!

公益財団法人 AFS 日本協会

info-kyoto@afs.or.jp

080-4290-6526

担当: 奥村

られること」、酒井さんは「人との出会いによる自分の成長」。内容は違えど、2 人が感じる「価値」は、どちらも普通の生活ではなかなか得られない貴重なものであることは間違いない。

FOCUS は

神戸大学ニュースネット委員会  
同志社大学 PRESS 編集部  
NEWS 立命通信社  
関学新月通信社  
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムス編集部  
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部  
京都女子大学藤花通信編集部  
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです

## UNN 関西学生報道連盟